

令和7年度 江戸川区立一之江学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

|             |  |  |  |
|-------------|--|--|--|
| 学校教育目標      | ◎進んで学習する子<br>◎思いやりのある子<br>◎明るく元気な子   | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像   | 保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校<br>自分から進んで確かな学力、豊かな心、健康な身体を身に付け高めようとする子ども<br>より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師 |
| 前年度までの本校の現状 | 成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>情報活用能力育成研究校として、情報活用能力表(一之江モデル)の作成、活用などを進めている。</li> <li>全体として明るく素直で落ち着いた学校生活を送ることができている。</li> </ul> | 課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>仮校舎での生活、スクールバス通学が続く中、安心・安全を第一に教育活動を進めることが求められている。</li> <li>学力、体力ともに二極化傾向が進んでいる。</li> <li>配慮を要する児童への支援を充実させる必要がある。</li> </ul> |  |

| 重点          | 取組項目                      | 具体的な取組内容  | 数値目標                                 | 達成度 |      | 「中間」自己(学校)評価(A~D) | 「中間」学校関係者評価(A~D)  | 「年度末」自己(学校)評価(A~D) | 「年度末」学校関係者評価(A~D)  | 次年度に向けた改善案                                    |   |   |  |   |
|-------------|---------------------------|---|--------------------------------------|-----|------|-------------------|---|--------------------|--|---|---|---|--|---|
|             |                           |   |                                      | 9月  | 2月   | 評価                | コメント  | 評価                 | コメント   |   | 評価  | コメント  |  |   |
| 学力向上        | ○自ら進んで学ぶ態度の育成             | ・習熟度別学習、教科担任制等の実施<br>・1人1台端末の効果的な活用               | ・授業がわかりやすいという児童90%以上                 | 92% | 92%  | A                 | ・授業の工夫がされているという教員91%<br>・ICTを活用した授業も定着してきた                        | A                  | ・1人1台端末が子どもたちに定着している<br>・学習意欲を高める工夫を重ねてほしい                             | ・授業の工夫がされているという教員83%<br>・端末やICT機器が積極的に活用されている | A   | ・タブレットとノートなどのバランスはどうだろうか。<br>・それぞれの好きな学習、得意なことができるよとい | 理科専科の配属などが予定されており、学習の充実をさらに推進する。                                   |   |
|             | ○基礎学力及び学習習慣の定着            | ・学力方スタンダードによる学習習慣の定着<br>・区、国の学力調査の活用<br>・放課後補習の実施 | ・学力を高めようとしているという児童90%以上              | 91% | 87%  | B                 | ・学力向上の取組が推進されていることと期待したい<br>・補習なども活用しながら、基礎学力を定着させてほしい            | B                  | ・学力向上の取組が推進されていることと期待したい<br>・学力調査では国や区を上回り、都と同レベルであった。<br>・全体に個人差が大きい。 | B   | ・授業につながるような力を培っていくことが大切だと思う<br>・学力調査では国や区を上回り、都と同レベルであった。<br>・全体に個人差が大きい。 | 学力調査の活用、放課後補習などを充実するとともに家庭への情報発信や協働にも一層力を入れていく。       |  |   |
|             | ○読書科の更なる充実                | ・探究的な学習(調べ学習)の推進<br>・学校図書館活用の充実                   | ・学校や家で本をよく読むという児童70%以上               | 71% | 58%  | C                 | ・読書指導が適切という教員78%<br>・調べてまとめる学習の充実を推進したい                           | B                  | ・端末を活用し、またスマホが生活の一部になっている時代の「読書」のあり方が問われている                            | C   | ・読書指導が適切という教員78%<br>・図書委員会でもさまざまな取組が進められた                                 | B   | ・家庭で本に触れない児童も少なくはないのではないか。学校だけの取組ではなく、広げられるようにできるとよい。              | 児童発表の取組をさらに増やし、児童から児童への働きかけを強化したい。                    |
| 体力向上        | ○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上 | ・体力テストへの取組<br>・なわ跳びの推進                            | ・体力を高めようとしているという児童85%以上              | 94% | 82%  | B                 | ・体力向上の活動が充実しているという教員70%<br>・制約の多い環境の中で工夫を重ねている                    | B                  | ・仮校舎という厳しさがある中、さまざまな取組、工夫が進められている                                      | B   | ・体力向上の活動が充実しているという教員74%<br>・なわ跳び、持久走などの取組を全校で進めた。                         | B   | ・運動が苦手な子も楽しめるような工夫があるとよい。<br>・なわ跳び、持久走などががんばってほしい。                 | 1年後の本校舎への移転も視野に、取組の改善・充実を進めていく。                       |
|             | ○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上    | ・歯の健康にかかわる取組の推進<br>・多形な給食の実施                      | ・健康な生活を送っているという児童80%以上               | 91% | 91%  | A                 | ・健康への取組が適切という教員87%<br>・歯の健康にかかわる取組なども計画的に進めている                    | A                  | ・健康、食生活など家庭への啓発、連携がさらに進んでいくとよい   | A   | ・健康への取組が適切という教員100%<br>・充実した給食指導が計画的に行われた。                                | A   | ・児童が給食を楽しみにしている様子が見られる。<br>・健康については家庭との協働の充実を期待したい。                | 給食も含めた健康の保持増進にかかわる取組をさらに推進していく。                       |
| 教育の実現に向けた推進 | ○困りに応じた指導の充実              | ・巡回指導をはじめとする人材、資源等の活用<br>・校内委員会を中心とした支援の充実        | ・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上    | 96% | 96%  | A                 | ・スクールカウンセラーなどが活用されているという教員100%<br>・組織的な対応を努めている。                  | A                  | ・さまざまな支援の形があるようだが、担任の負担が大きいのではないか<br>・新たな形の学級など多様な支援が進むとよい             | A   | ・スクールカウンセラーなどが活用されているという教員100%<br>・さまざまな「資源」を活かした取組を進めた。                  | A   | ・担任だけではなく、いろいろな人がかかわっているということが大切である。<br>・一人一人にとって安心してできる場があるとよい。   | 多様なスタッフの活用や関係機関との連携などにより、一人一人に応じた支援を展開する。             |
|             | ○日本語指導の充実                 | ・日本語学級での指導の充実<br>・理解啓発の促進                         | ・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上    | 87% | 96%  | A                 | ・日本語学級での指導を円滑に進めている。<br>・指導担当者や学級担任との連携を密にしながら指導・支援にあたっている。       | A                  | ・外国籍の子どもが増えるなど、多様な子どもが通学してくる中、学校外の資源も活用した支援の充実がより必要になってくる。             | A   | ・日本語学級の取組を他校にも広げた。<br>・学校での指導をより効果的にするための発信を心がけている                        | A   | ・指導が必要ない児童が増えつつあることを見据えて準備を進めてほしい。<br>・地域の中でのかわかり、支援も考えていきたい。      | 日本語学級の支援の実際やより効果的な活用などについて広く情報発信し、対象児童の支援を充実させる。      |
| 不登校・いじめ対応   | ○豊かな心の育成                  | ・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充<br>・豊かな感性、情操の育成           | ・当番や係活動、委員会活動などに進んで取り組んでいるという児童90%以上 | 92% | 89%  | B                 | ・児童が積極的に取り組めるよう委員会などが運営されているという教員96%<br>・行事等も児童の実行委員会を設置するなどしている。 | A                  | ・子どもの声を活かした教育をさらに進めてほしい<br>・誰かの役に立つという経験が子どもたちに積ませていきたい                | B   | ・児童が積極的に取り組めるよう委員会などが運営されているという教員83%<br>・児童の一層の活躍を期待する雰囲気醸成された。           | A   | ・現代の児童であるからこそ、役割を得る、果たすという機会を大切にしたい。<br>・地域の中で児童が活躍できるような場を充実させたい。 | 児童が主体的にかかわり活躍する場の充実を進める。児童の「やりたい」という気持ち、アイデアを活かすようする。 |
|             | ○健全育成の推進                  | ・いじめ、不登校への組織的取組の推進<br>・基本的な生活習慣の系統的な育成            | ・相手の気持ちを考えながら行動しているという児童85%以上        | 73% | 89%  | A                 | ・いじめ、不登校解消に向けた取組が行われているという教員87%<br>・重篤ないじめの状況はみられない               | B                  | ・一人一人に応じた支援、対応を進めていくためには学校外とどう連携できるかが大切<br>・いじめの未然防止に努めてほしい            | B   | ・いじめ、不登校解消に向けた取組が行われているという教員96%<br>・重篤ないじめに至らぬよう未然防止、早期対応を進めた。            | B   | ・さまざまな考え方があがる時代なので、その子に応じた支援が求められるとよい。<br>・地域、PTA、関係機関との連携を強化していく  | 情報モラルなども含めた健全育成の取組を進めていく。地域、PTA、関係機関との連携を強化していく。      |
| 学校(園)の実現    | ○積極的な情報発信                 | ・学校のホームページの毎日の更新<br>・全校保護者会、学校説明会等の充実             | ・学校はホームページ等で積極的に情報発信をしているという保護者80%以上 | 91% | 90%  | A                 | ・保護者等に積極的に情報発信しているという教員100%<br>・ホームページの更新を毎日継続している。               | A                  | ・ホームページをはじめ積極的な発信がされている<br>・発信を続けているからこそ発信を大切にしたい                      | A   | ・保護者等に積極的に情報発信しているという教員96%<br>・ホームページの閲覧数が年間15000件を超えており、保護者等の期待も大きい。     | A   | ・ホームページが保護者、地域に及ぼす影響は大きいと感じている。できるだけ可視化することが安心や信頼につながる。            | 引き続きホームページでの情報発信に努めることにも、学校公開、保護者会などの改善を進める。          |
|             | ○安心・安全な学校づくりの推進           | ・さまざまな災害等を想定した訓練の実施<br>・食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底    | ・地震や火災のときの自分の身の守り方がわかるという児童90%以上     | 95% | 94%  | A                 | ・防災・防犯等の取組が適切という教員96%<br>・食物アレルギーへの対応も適切に進んでいる。                   | A                  | ・1/3通学の中での防災・防犯の壁しさはあるが、さまざまな状況想定した準備に努めていくことが大切である                    | A   | ・防災・防犯等の取組が適切という教員100%<br>・アレルギー事故をはじめ未然防止の取組を進めることができた。                  | A   | ・あと1年のスクールバス通学を安全第一ですすめてほしい。<br>・災害対応にも適切な準備を進めておきたい。              | 不審者対応、学校のセキュリティの強化などもさらに進めていく。                        |
|             | ○家庭、地域とともに子どもを育てる教育の推進    | ・PTAとの連携・協働の推進<br>・学校評価の充実                        | ・学校は、意見や要望等を教育活動に生かしているという保護者80%以上   | 72% | 75%  | B                 | ・保護者からの相談に誠実に対応しているという教員96%<br>・保護者の率直な意見を受け止め改善を図る体制の充実を努めている。   | B                  | ・これからの時代のPTAのあり方について、学校、保護者、地域等との協議などもできるとよい                           | B   | ・保護者からの相談に誠実に対応しているという教員100%<br>・保護者からの相談等には迅速・適切に対応するよう努めている。            | A   | ・令和9年4月の新校舎運用開始を保護者、地域共々盛り上げ、学校改善の大きな契機としていきたい。                    | 保護者等からの迅速・適切な対応を徹底する。新校舎移転を計画的に進めていく。                 |
| 教育の展開       | ○教員の資質・能力の向上              | ・教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進<br>・授業改善の推進               | ・資質・能力の向上に努めているという教員80%以上            | 96% | 96%  | A                 | ・校内研究が充実しているという教員87%<br>・都の情報教育にかかわる研究校としての取組を進めている。              | A                  | ・教育は個々の教員の力によるところが大きい。その力量アップをさらに進めてほしい                                | A   | ・校内研究が充実しているという教員74%<br>・都の情報教育の研究は一定のまとめを行った。その成果を次につなげたい。               | A   | ・若手教員も多い中、その指導・育成も適切に進めてほしい。<br>・ベテランから若手への伝承がうまく進むとよい。            | 今年度までの研究の成果を発見させつつ、読解力の向上など直面する課題の解決に向けた研究を進めていく。     |
|             | ○働き方改革の推進                 | ・会議等の効率化、組織改革の一層の推進<br>・ペーパーレス化の一層の推進             | ・時間外勤務の縮減に努めているという教員80%以上            | 91% | 100% | A                 | ・ペーパーレス化が進んでいるという教員96%<br>・会議等が効率的に運営されている。                       | A                  | ・同が本当に大切なかを見極めていくことが大切であり、それを踏まえて効率化を進めてほしい                            | A   | ・ペーパーレス化が進んでいるという教員96%<br>・時間外勤務を大幅に縮減している。                               | A   | ・教職員にとっても働きやすい職場であることを目指す。<br>・時代に合った学校運営の形を求め続けてほしい。              | 教職員の職務遂行への意欲の向上や業務改善などをさらに進めていく。                      |